

西海ブロック水産業情報

NO. 75 (平成23年10月～12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>記載なし</p>	<p>●豊前海 ・カキ養殖は、成長、身入りとも良好。ただし、一部漁場では垂下初期における食害の影響で収穫量が減少。海区全体の収穫量は平年並みの見込み。 ●有明海 (増殖) 10月中旬から福岡県有明海域でサルボウの斃死が発生(ノリ養殖) 10月13日から開始。この日はかなりの降雨があり、また強い南風が吹いたため、「種が付きにくい」「落下傘やカキ殻がなくなる」といった被害が一部で発生した。また、秋芽生産期には、多雨の影響で、あかぐされ病の大きな被害が発生し、平成15年度以来の不作となった。なお、冷凍生産は12月20日から開始され、概ね順調に生産が行われている。</p>	<p>●玄海 【種苗生産】 ・アカウニ:9月下旬採卵。～12月、177万個体飼育中。 ・クロアワビ:11月中旬採卵。～12月、15万個体飼育中。 【標識放流情報】 ・10月14日 クエ350mm 120尾 60mmダート型タグ(オレンジ)装着。呼子町小川島、鎮西町馬渡島放流。 ●有明 【研究の動向】 【水産資源関係】 ・タイラギ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・浅海定額調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(カキ) 【水産増養殖関係】 ・タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験およびカゴ飼育比較試験 ・沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験の追跡調査 ・サルボウの浮遊幼生等調査 【その他】 ・有明水産振興センターのホームページに漁況情報として、大浦カキ採苗試験情報、タイラギ生息状況速報、漁況関連情報を公開中。 【水産資源関係】 ・ガザミの漁獲量は近年では平成20年に次ぎ多い。ただし例年は雌主体の漁獲になるのが、雄主体の状況が11月まで続いた。タイラギ潜水器漁業は12月18日に解禁となり、太良沖で操業されているが、1日4～7隻の操業しかなく(許可申請30隻程度)、1日1隻当たり6kg前後の漁獲となっている。操業量数は前年同期の1/6、1日1隻当たりの漁獲量は同じく1/2となっている。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・水温は、10～12月まで平年より高めで変動した。 ・比重は、10月は平年並み、11、12月が平年より低めで変動した。 【水産増養殖関係】 ・サルボウについては、ボイル後の歩留まり(殻付重量に対するボイル後の剥身重量の割合)が昨年の20～25%に対して15～17%と低い。目の大きなジレンを用いて漁獲されていたことなどから、今年度の漁獲量は昨年の1/2程度と推定している。なお、7月中旬以降、貧酸素と低塩分が原因と思われる斃死が小潮期を中心に断続的に確認されたこと、10月以降もたららした斃死が継続していることから、次年度の漁獲への影響も懸念される。 ・マガキ養殖については、昨年度より水温が低めに推移したこと、餌となる植物プランクトンの量が少なかったことなどから、秋口の大量斃死は発生しなかったものの、フジツボ、ホトギスガイ等の競合生物の大量付着により、成育が抑制されている状況である。 ・ノリ養殖については、育苗が昨年よりも10日早い10月13日から開始され、低比重の影響があったものの、その後の芽の生長は順調であった。しかし、秋芽網期の生産期は11月5日に初認されたアグサレ病が11月18日、19日のこの時期としては記録的な降雨によって広範囲で重症化し、生産不能網がみられるなど大被害となった。そのような中、秋芽網期は12月14日まで生産され、生産枚数35億枚(前年比46%)、生産金額36.1億円(前年比38%)と厳しい結果となった。冷凍網期は、出庫が12月20日から開始され、冷凍戻りも良く低水温ながら順調に生長しており、12月末現在、病気が確認されていない。しかし、12月30日に塩田川河口で建業類のアステリオネラによる赤潮が確認された。</p>	<p>○標識放流 ・ホシガレイ(11月～12月に全長13～17cm、29千尾、有明海)、オニオコゼ(12月に全長7cm、17千尾、有明海) ○放流魚追跡調査 ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、アワビ他について追跡調査を実施 ○有明海漁業振興技術開発事業 【メイタガレイ】11月から成熟調査を実施し、12月から採卵および種苗生産試験を開始した。 【タイラギ】移植による干潟飼育試験と垂下飼育による肥育試験を実施中。 ○貝類の新養殖技術開発 マガキシングルルシードによる養殖試験を実施中。</p>	<p>・クルマエビ急性ウイルス血症(PAV)平成23年度漁期の発生はなかった。 ・細菌性溶血性黄疸症 12月に入り、牛深地区で発生が確認された。 ・ノカルジア症 11月以降、御所浦地区、牛深地区で発生が確認された。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・10月下旬に南さつま市笠沙町片浦で、コックロディニウ Δ spp. 笠沙型による赤潮が発生。最大30,000cells/mlまで増殖したが、11月22日に終息を確認。 ・スジアラ:約60,000尾(70～80mm)を奄美大島等に放流。 ・ヤコウガイ:3,000個(30mm)を与論島に放流。</p>	<p>○イワガキ種苗生産試験 8月22日に採苗し、480枚のホタテ原板に付着させた稚ガキ14,822個を、10月4日(平均殻高4.6mm)及び同11日(平均殻高6.46mm)の2回に分けて宮崎市青島漁港内の水試筏に冲出した。 1回目の冲出し群はネットで覆うことなく暴露状態で、2回目の冲出し群はネットで覆い又は暴露状態で垂下したところ、暴露状態垂下分については魚類による食害と思われる減耗が見られたことから、11月1日に全てネットで覆った。その結果、食害と思われる減耗は止まり12月20日現在の生残数は約8,800個(平均殻高約30mm)となった。</p>	<p>10月～12月の赤潮発生状況は以下の4件であり、漁業被害はなかった。 Noctiluca scintillansによる赤潮 : 豊後水道入津湾 2件 別府湾西大分 1件 Prorocentrum sp.による赤潮 : 豊後水道入津湾 1件</p>	<p>記載なし</p>